

IAUD Newsletter vol.10 第1号(2017年4月号)

| | |
|---|----|
| 1. 活動報告:余暇のUDPJ 字幕付きCM 意見交換会開催 | 1 |
| 2. 「IAUD アワード 2016」受賞紹介③ | 4 |
| 3. 国際UD 会議開催 15周年記念 予稿集・論文集・講演集 限定セット販売のご案内 | 11 |
| 4. IAUD 4月の予定 | 12 |

若い世代に CM 字幕の必要性を理解してもらうために 活動報告:余暇のUDPJ 字幕付きCM 意見交換会開催

「テレビ CM にも字幕を」をテーマに活動している余暇のUD プロジェクトは、2月28日(火)に「字幕付きCM 意見交換会」を筑波大学附属聴覚特別支援学校(千葉県市川市)で開催しました。

今回の意見交換会は、単なるコンテンツに対する意見収集ではなく、これから社会に出て、さまざまな環境で活躍する若い人たちに、CM 字幕の現状や必要性を理解してもらう、という目的もありました。

また、今回はCM 字幕の研究を行っている追手門学院大学の福島孝博先生も参加され、海外におけるCM 字幕のお話なども伺いすることができ、中身の濃い大変有意義な意見交換会となりました。

今号のNewsletterでは、当日の様子を余暇のUD プロジェクトメンバーの土屋亮介氏が報告します。



字幕付きCM 上映中の様子

CM 字幕の現状

当日は筑波大学附属聴覚特別支援学校2年生の授業2コマをさせていただき、生徒27名と余暇のUD プロジェクトメンバー5人が参加しました。

まず主査の松森果林氏より、今回の意見交換会の趣旨とCM 字幕の現状について説明がありました。

どのくらい放送されているのか、クローズドキャプションとオープンキャプションの違いなど、字幕の基本についての説明がありました。



CM 字幕の現状を説明する松森主査

続いて土屋より、CM 字幕の放送上の制約ルールや、今回のオリジナル CM 字幕の制作工程の説明を行いました。

生徒の皆さんはとても熱心に聞き入ってくれました。

オリジナル CM 字幕と比較

続いて、余暇の UD プロジェクトと東京都市大学が共同で作ったオリジナル CM「Su-to!(すーっと!)」を上映しました。

順番は、①字幕なし・音なし②字幕あり・音なし③字幕あり・音あり、の順に見てもらいました。

字幕も音もないバージョンでは、「男女の恋愛もの」「大体の流れと商品名だけ分かる」という反応でしたが、字幕と音声がつくと「商品名が良く分かり、ストーリーも深く理解できた」「ハートのアニメーションの意味が分かり、主人公の心の落ち着き具合が理解できた」など、理解を示すコメントが多く出ました。

さらに、④自由な発想で作った字幕を見てもらうと、「吹き出しと字幕が発言者の近くにあるので分かりやすい」「マンガみたいで面白い」という感想がある一方で、「あちこちに字幕やアイコンが出るので見るのが大変」「聞こえない人は見る力が強い。そのため情報が多いと逆に伝えたいものが理解できなくなるし、商品が薄れてしまうと思った」、というコメントもあり、我々としては意外な結果になりました。

最後に、国内で最も多くの CM 字幕を制作している株式会社デジタルエッグが、通常のテレビ CM と同じ方法で付与してくれた字幕を見せると、「お——！」というどよめきがありました。「やっぱり見慣れている字幕が見やすい」ということでした。

やはりプロが作った字幕は安心感があるのだ、と改めて気づかされました。

これまで 2 回行ってきた意見交換会では、どちらかというど「自由な発想で作った字幕」の評価が高かったのですが、若い学生の皆さんは冷静な視点で字幕を捉えているので、我々としても新しい発見でした。

※オリジナル CM 字幕の詳細は IAUD Newsletter vol.9 第 4 号(2016 年 7 月号)をご覧ください。

<https://www.iaud.net/newsletter/6449/>

生徒たちからの率直な意見

その後の意見交換の場では、皆さん積極的に意見を述べてくれて、非常に活発な意見交換会となりました。

以下印象に残ったコメントを記載します。

①生徒には、事前課題として現在放送中の字幕付き CM を見てきてもらい、当日その感想を聞きました。

・「日清カップヌードルの“今だ！バカヤロー”と言っているビートたけしがすごく面白かった」



オリジナル CM 字幕を上映した



意見交換会の様子

- ・「キヤノンのカメラの機能がすごく理解できた」
- ・「JSRのCMをみてこんな会社があるのだと知った」
- ・「東芝のCMは未来についてとても興味が持てた」

上記のように、具体的なCMや企業名を挙げており、字幕のあるCMは印象に残ることが分かりました。

また、その他にも、

- ・(今までは見終わってから考えて理解していたが)、字幕があると見た瞬間に理解できる。
 - ・auの桃太郎シリーズは聞こえる人には楽しいCMだが、聞こえない人には全く分からない。auにもCM字幕を付与してほしい
- など、さまざまな意見がありました。

②オリジナルCM字幕について

- ・きゅつきゅと靴の音の部分は不思議に思った。何だか理解出来ないの、不要だと思った。
 - ・沢山の飾りがあり、話が分かり易い
 - ・吹き出しが漫画みたいでろう者の視点で楽しかった。
- 本音の意見が多く、大変参考になりました。

③事後に行ったアンケート

- ・CMからも情報を得られる。もし字幕がないとき、メディアを通じて得られる情報が10とすると、せいぜい4~6ぐらい。と考えると、字幕がろう者にとっては必要となると思います。
- このように、数値で表してくれた生徒もいました。

字幕付与率世界一のカナダ

最後に、追手門学院大学准教授の福島孝博先生が「カナダにおけるCM字幕の事情」について、実際の映像とともに紹介してくださいました。

カナダは字幕付与率が世界一と言われ、番組からCMまで途切れることなく字幕が付与されているとのこと。

めったに聞くことができない海外のCM事情を、実際の映像とともに見ることができ、生徒たちは興味津々でした。

話の中で、前のCMの字幕が後のCMに頭にかぶる例も紹介してください、「日本ではクライアントが大事でこのような現象は許されていないが、カナダでは許している。何の優先度が高いのか皆が理解しているからだろう」という話がありました。

これに対し質疑応答では、「日本では障害者差別解消法が施行されたのに、なぜCM字幕の法整備ができないのか」という鋭い質問もあり、生徒全員が積極的に自分の意見を述べる姿が印象的でした。



カナダのCM字幕事情を紹介する福島先生

広告主や放送局にも働きかけを

開催後、担当の加藤先生から、「ある生徒は字幕付き CM が普及するために、自分たちができることを考えていかなければならない、と言っていた。以前よりも自分の問題としてとらえる様子が見受けられた」との感想をいただきました。

生徒たち自らが発信し、社会を変えていく必要性に気づいてもらうために、私たち大人がその見本を示さねばならないと認識を新たにしました。

余暇のUDプロジェクトでは今後も多様な生活者との対話を軸に、広告主や放送局にも働きかけていく予定です。(了)



筑波大学附属聴覚特別支援学校の加藤先生



多くの人々が快適で暮らしやすい UD 社会の実現に向けて 「IAUD アワード 2016」受賞紹介③:金賞受賞 2 件の取り組み

「IAUD アワード 2016」受賞紹介の 3 回目は、金賞を受賞した 2 件の取り組みです。

IAUD アワード 2016 審査委員長のロジャー・コールマン氏(英国王立芸術大学院名誉教授)は、公共空間部門金賞の「クルディーガ(ラトヴィア)の歴史的市街地におけるバリアフリー環境に関するコンセプト」(ナショナル・チャリティー・ファンド「バリアフリーシティー」/バルト建築センター)に対し、「ラトヴィアの構想は、根拠の確かな素晴らしい第一歩であり、長期的な結果につながる見込みが高い。建築学校から始まり、市民との素晴らしい分野横断型協力に結実したまれな例で、UD に関して地元の経験や能力が限られている分野の知識不足を埋めるのに役立つ」と評価しました。

また、コミュニケーションデザイン部門金賞の「2020 年に向けたアクセシビリティ向上の取り組み」(パナソニック(株))については、「重要利用者グループと密に協力し、特に来日客の移動とナビゲーションを円滑に行うことを目的としたハード・ソフト統合型ソリューションの開発と試験を進めており、ハードとソフトが十分に融合した実用的ソリューションを実現した」と評価しました。

今号の Newsletter では、「クルディーガ(ラトヴィア)の歴史的市街地におけるバリアフリー環境に関するコンセプト」を「バリアフリーシティー」の CHISTYY SERGEY 氏に、「2020 年に向けたアクセシビリティ向上の取り組み」をパナソニック(株)東京オリンピック・パラリンピック推進本部パラリンピック統括部の黒川崇裕氏に紹介していただきます。

※これまでの「IAUD アワード 2016」受賞紹介は、こちらをご覧ください。

「IAUD アワード 2016」大賞受賞のご紹介 IAUD Newsletter vol.9 第 10 号(2017 年 2 月号)

<https://www.iaud.net/newsletter/8478/>

「IAUD アワード 2016」金賞受賞のご紹介 IAUD Newsletter vol.9 第 11 号(2017 年 3 月号)

<https://www.iaud.net/newsletter/8505/>

※「IAUD アワード 2016」受賞結果は、こちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/award/8109/>

※「IAUD アワード 2016」審査講評は、こちらをご覧ください。

<https://www.iaud.net/award/8077/>



人類の夢を抱く小さな町

公共空間部門金賞：クルディーガ(ラトヴィア)の歴史的市街地における
バリアフリー環境に関するコンセプト

ナショナル・チャリティー・ファンド「バリアフリーシティー」/バルト建築センター

古都クルディーガ

クルディーガはラトヴィア共和国西部にあるクルディーガ州の州都です。13世紀から発展し始め、17世紀にはクールラント公国の首都として発展しました。

クルディーガの主な観光資源は、歴史・文化遺産と、その規模と美しさでラトヴィアでも有数のヴェンタ川です。また、東部にあるヴェンタ滝は、ヨーロッパでもっとも幅の広い滝で知られています。

アレクスピーテ川という小川に沿ったクルディーガの歴史的市街地には独特の魅力があります。元はクルディーガ城の近郊に建設されたもので、17世紀から18世紀にバルト諸国に建設された都市の建物群が現在も残っています。旧市街の狭い通りには、赤いタイル屋根で中央に煙突のある平屋建ての家がまだ保存されています。景観を壊す現代的な道路も鉄道もないので、田舎風スタイルを保持することができ、クルディーガ旧市街とヴェンタ川にかかる赤レンガの橋は、ユネスコ世界遺産の候補となっています。



クルディーガの歴史的市街地

クルディーガをすべての人のための町に

クルディーガ市議会は、町の歴史的な中心部に「生きた博物館」として機能する複合施設を整備することを目指しています。

このクルディーガの歴史的市街地で実施した「バリアフリー環境に関する建築学的コンセプト」は、公道スペースのデザイン要素を統一し、行動範囲を制限された人々が利用できる都市環境を目指す、スペシャルイベントです。

私たちの構想は、古都クルディーガを国内外の旅行者を惹きつけて、持続可能な町の発展に貢献し、重要な国際的観光地にすることです。

クルディーガは人口13,500人の小さな町ですが、歴史遺産へのアクセス、そしてUDの原則の実現と「すべての人のための建築」という価値観は、他のEUの都市と共通の課題となっています。

障害に直面し障害を取り除く

このプロジェクトに取り組むために、実現しなくてはならないことは以下のとおりです。

・ラトヴィアなどの国々の建築家やデザイナーが、歴史遺産へのアクセスを容易にする環境とUDの原則をよりよく理解する。

・歴史遺産へのアクセシビリティの理解を促進して、機能的障害を持つ人々の社会的排除をなくす。

・歴史遺産のある小都市へのアクセシビリティを改善することで、観光とすべての人の環境認知を促進する。

バルト建築センターのこのプロジェクトの価値指向と目的は、すべての住民が利用できる歴史遺産についての理解を深めて、ラトヴィアの社会と経済の長期的発展を促進することです。

機能的障害(視覚、聴覚、動き、精神障害)のある人を含め、あらゆる人が自然、サービス、製品、情報を利用できる、UD に基づく環境を整備します。



ユーザーとの調査の様子

・ルートの最適化

・歩道の拡張

・地区再整備: 歩行者のための誘導用標示、横断歩道の指示音、障害者用駐車スペース、視覚障害者誘導用ブロック、車椅子の人用のバス待合場所を設置。

・ヴェンタ川岸にあるビーチの再整備: 障害者用エレベーター、レクリエーションエリア、ビーチエリアから滝までの歩道、仮設建物、川へのスロープを設置。

UD 原則の実現への強い推進力に

このプロジェクトには、クルディーガ市政府のリーダーや専門家、建築・デザイン関係者、建築・デザイン専攻の学生、2つの NGO「バルト建築センター」「視覚障害者の融合のための協会 I See」、クルディーガ市民などが参加しました。

そして、数十年に渡る無私の尽力を基礎とするこの公的事業の取り組みを、「バリアフリー環境に関する建築学的コンセプト」(以下「コンセプト」)として発表しました。

http://www.stadtentwicklung.berlin.de/internationales_eu/staedte_regionen/download/projekt_e/eurocities/14bca_prag_2016/sergey_chistiy.pdf

「コンセプト」には多くの事実に基づいた資料が収められています。

・「コンセプト」各章で系統立てて述べられている歴史的な町の中心部の整備に関する、ポジティブおよびネガティブな経験。

・バリアフリー環境、また町の中の歴史的地区におけるバリアを克服する模範的解決策

・都市スペースの審美的な概念

これまでの「コンセプト」に基づいたクルディーガの UD 原則実施の取り組みは、質の高さをラトヴィア共和国厚生省にも認められ、ラトヴィア全土の公共の建物と屋外スペースの環境アクセシビリティ戦略と基準となりました。

私たちは建築家やデザイナー、都市計画の専門家、学生、大学教授、そしてヨーロッパのみならず世界の地方・中央政府のリーダーたちに、以下を奨励します。

1. 広範な国際的経験を要約し、元となる研究を示し、特定の都市環境における変更の手引きとなる「コンセプト」を知り、

2. それを皆さんの UD 実施での独自の経験と比較し、

3. 皆さんの理解、推奨、プロジェクトをクルディーガに伝え、地方政府の取り組みとして理論

を实践へと進めることに参加し、

4. 皆さんの(特に都市の歴史的市街地での)専門的活動の中で、「コンセプト」の何らかの側面や情熱の実現に取り組み、皆さんの経験を、私たちと、そして全世界と共有し、

5. 「コンセプト」を実施した経験を、教育課程の主要な側面として、すなわち、専門教育だけでなく、障害を持つ人、NGO、メディア、国と地方政府、一般の人々の参加に利用すること。

「コンセプト」が、歴史地区と現代の都市環境での、次の事項を優先する UD 原則の実現への強い推進力となることを期待します。

- ・コミュニティ・グループや私たちすべてを含む個人の特別なニーズ
- ・人々にやさしく誰でも利用できる都市環境の創生
- ・現代のニーズに合った個々の歴史、文化、建築遺産の保護および創造的な整備

7つの課題と解決策

「バリアフリー環境に関する建築学的コンセプト」に関し、7つの質問・課題とその回答・解決策を以下に挙げます。

質問1: 身体障害者グループが都市空間に適應できるようにするため、UDを検討する長いプロセスの出発点は何でしょうか。

回答: 一般に、どんな仕事でも「梯子を1段ずつ上ること」から始めます。

都市で全体的に1つにまとまったバリアフリースペースを確保するため、新たな手法が開発され、体系化されました。

「コンセプト」では、新たな一般原則や解決策を提起しましたが、これらによってさまざまな障害を克服するため個々の分離した役割や行動の調和を図り、バリアフリーシティーについての意味深い総合的なデザインを作り上げることが可能になりました。

さらに、都市の整備に向けた基準を作り上げる標準的な手法も生み出されました。これはUD実現のための一体的な都市開発手法とすることができます。

質問2: 史的記念物の保護とバリアフリー環境、これらは両立しないものですか。それとも心理的な障害にすぎないでしょうか。

回答: 長い間にわたって、歴史、文化、建築遺産の所在地、そして特に町中にある中核的な歴史遺産は、身体障害者グループにとっての安全で快適な条件には含まれていないのが普通、と考えるのが妥当と思われます。

この「コンセプト」は世界で事実上初めて、クルディーガの史跡にある歴史、文化、建築遺産に適合する原則を策定し、これを実際に適用しました。

「コンセプト」による方法の基本は、UDの原則と史的記念物保護の原則の比較です。

さらに、「コンセプト」により、「物に触れることはできません」の掲示を出して史的記念物保護のため特に厳しく規制している中で、バリアフリー環境の建設を実現する一般的な手法が生まれました。

質問3: 史跡のある町でバリアフリー環境を建設するには、どのくらいの経費がかかりますか。

回答:このような質問は工事が始まる前に当局から出てくるのが普通です。しかし、町全体、またデザインについて、さらに必要な作業全体の予算について詳しく調査しさえすれば、ただちにその答えが見つかることはしばしばあります。

都市部においてバリアフリー環境を整備するのに必要な費用の1ヘクタール当りの見積額の基準は、このコンセプトによって町の中核的な歴史遺産に関して初めて示されています。

試算では、別個のプロジェクトとして適応化工事を実施する場合、バリアフリーの都市環境を整備する費用は市の予算の2~3年分と同程度になります。

このような状況において、バリアフリー環境の整備に関して、市の政策の中での優先順位をどうするかという問題が出てきます。

「コンセプト」においては、提起されたさまざまな選択肢や具体的な優先順位付けによる政策の選択が考慮されています。

このような選択肢の中の主なものは、以下の質問の中で具体的に述べられています。

質問 4:町全体を1つに統合して整備、それとも各地に分散して整備するのでしょうか。

(選択肢 1)

回答:答えは自ずと明らかです。しかし、都市環境を統合して整備することは非常に費用がかかり、また時間も要します。

このような事業の各段階をどのように決めるのか。各地に分散した複雑な整備環境をどのように維持するのか。

町の各地に分散した整備環境を、すべての作業が完了する前に、どのように統合してまとまった都市スペースを作り上げるか。これらに対する答えは、「コンセプト」の該当する章で示されています。

質問 5:身体障害者向け住宅の整備と都市環境の整備のバランスをどのように保つのでしょうか。(選択肢 2)

回答:この問題は、身体障害のある居住者や旅行者のための町の整備に関する予算配分や整備の優先順位の決定にも関わってきます。

身体障害のある居住者や旅行者のための都市環境の整備が、その都市の状況に応じて最大限どの程度までできるかの算定方法は、「コンセプト」において実証されています。

質問 6:町の中に保護障壁が目立つのを抑えるため、建築条件を変更するのがよいでしょうか。あるいは障害者支援のツールを開発するのがよいのか。(選択肢 3)

回答:近年、この選択肢の完全な実用化を可能にする技術が世界中で生まれています。

例えば、あらゆる等級の身体障害者の屋内・屋外の移動を可能にするシステム、場所を問わず使用できる車椅子、さまざまな情報伝達を支援する手段、障害者用の福祉タクシーなどがあります。

多くの点で、これらの手段は模範的なバリアフリー都市形成の基盤としての役割を果たすことができます。

しかし、「コンセプト」によれば、このような手段を維持するためのコストは上記の建築条件を整備するコストと同程度である、ということになります。

ただ、いずれにしろ何を選択するかは地方自治体と住民に委ねられています。

質問 7: 一定の条件を満たした品質を維持しつつ、バリアフリーの都市環境を整備するのに要する費用は、どうすれば最も効果的に使えるでしょうか。

回答: 「コンセプト」では、まず概念が策定され、次いで都市環境の利用についての品質概念が具体化されました。

この概念は特定の地域の諸条件、また支援ツールと組み合わせて、都市でのバリアフリースペースを整備するために必要な手段の中からどれを選択するかを前提としています。(了)



多様な人々のアクセシビリティ向上に貢献

コミュニケーションデザイン部門金賞

「2020年に向けたアクセシビリティ向上の取り組み」

パナソニック株式会社

基本精神は、「人にやさしい商品づくり」

今から70年以上も前の1942年に、当社の創業者である松下幸之助が示した言葉があります。「製品には、親切味、情味、奥ゆかしさ、ゆとりの多分に含まれるものを製出し、需要者に喜ばれることを根本的に信念とすること」。

当社ではこれを基本精神とし、古くから「人にやさしい商品づくり」を行ってきました。

今回、IAUDアワード金賞を頂いた内容の原点も本精神です。

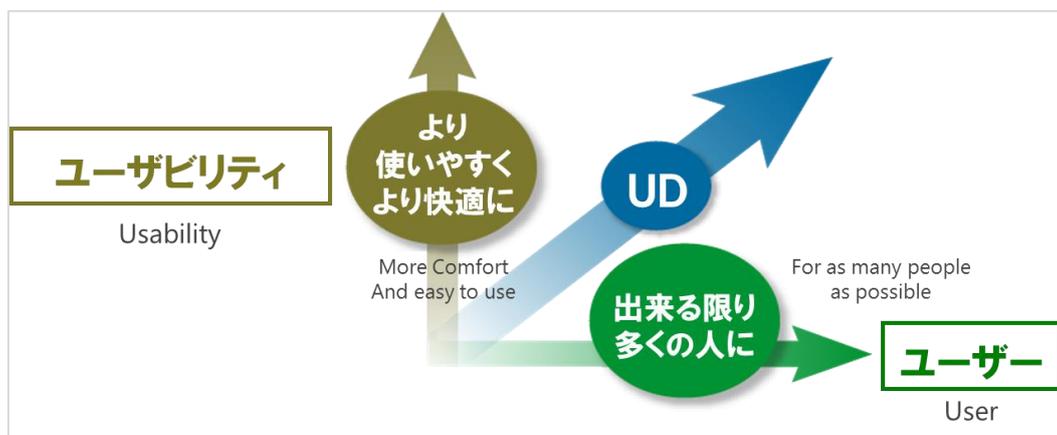


創業者 松下幸之助

パナソニックUDの基本的な考え方

当社のUDは、より多くの人々への心配りを商品・サービスを通じて提供し、共に生き生きと快適に、豊かに暮らせる生活の実現をめざしています。

今回金賞を頂きました「2020年に向けたアクセシビリティ向上の取り組み」もこの考え方にとり、障害をお持ちの方や外国人をはじめとするより多くの人々が「移動しやすい」ということにフォーカスしています。



UDの考え方

高アクセシビリティな移動ビジョン

2020年 は、多くの障害をお持ちの方も含め、大勢の外国人が日本を訪れることが予想されます。

しかし、現在、空港から、駅、街中を通り、スタジアムに到着するまでの道のりは決してスムーズとは言えません。

そのため、2020年に向けて、当社の最新技術を活用し、障害者への物理的なバリアフリーだけでなく、高齢者や外国人も含め、誰もが迷わず安全に移動できるソリューションを提供していきます。



高アクセシビリティな移動ビジョン

パナソニックのアクセシビリティソリューション

ICT 機器とロボット技術を活用し、施設設備、スマホやタブレットなどのパーソナルデバイス、電動車いすなどのモビリティを組み合わせ、個人の特性にあったサービスの提供を開始しました。

施設スタッフの負荷を増やさずに、アクセシビリティの向上に貢献していきます。



アクセシビリティソリューション

羽田空港での実証実験

2015年度より、羽田空港にて実証実験を行ってきました。

1つめは、LinkRayという当社独自の光ID技術を使った多言語対応デジタルサイネージです。

光IDとは、LED光源を高速点滅させることでさまざまな情報を送ることが出来る可視光通信技術です。

専用のアプリケーションをダウンロードしたスマートフォンをサイン デジタルサイネージ LinkRay
ージにかざすことで、そのスマートフォンに対応した言語に対応出来る
ので、日本語表記の看板でも、外国人の方は母国語で情報を取ることが
できます。



2つめはバリアフリーナビゲーションです。位置情報を発信するビーコン
という装置と、その信号を受信するスマートフォンアプリにより、複雑な施
設内や、通常のGPS電波が届かない地下街や商業店舗などでも個人の
特性に合った方法で目的地までご案内します。



例えば、車いすの方には地図と音声で、視覚障がいの方には音声と
振動で、聴覚障害の方にはスマホ画面上の地図と文字情報でルート案
内をします。

バリアフリーナビゲーション

最後は電動車いすです。ベンチャー企業のWHILL株式会社の電動車
いすに、当社の衝突防止技術を搭載することにより、より安全性を高めま
す。障害物や人に衝突しそうになったら自動的に停止し、事故を未然に
防ぐことができます。



電動車いす

今後の取り組み

2020年に日本を訪れた方が快適に過ごせるよう、また、多くの方が競技場に足を運べるよう、さらに多くのアクセシビリティソリューションを提供していきます。

また、2020年を機会に、当社のおもてなしソリューションを世界中の方々に知っていただくことで、さらに多様な人々のアクセシビリティ向上に貢献していきたいと考えています。(了)

UDのすべてがわかる

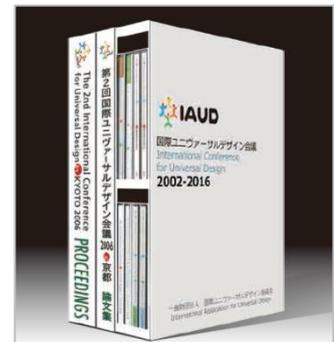
国際会議開催15周年記念 予稿集・論文集・講演集セット 限定200組販売

IAUDはこの度、国際ユニヴァーサルデザイン会議開催15周年を記念して、2002年、2006年、2010年、2012年、2014年、2016年の国際会議で作成した予稿集・論文集・講演集セットを、限定200組販売いたします。

セット内容はCD-ROM12枚と書籍2冊です。是非この機会にお買い求めいただき、学際的、業際的な広がりを見せるUDの国際的知見に触れることで、まず一人ひとりができることは何かを考えるヒントを得、そこから具体的なアクションに移す方策を立てる等、皆様の研究開発の一助になることを願っています。

お申込み・詳細は以下をご覧ください。

<https://www.iaud.net/conference/8520/>



予稿集・論文集・講演集セット

| 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 | 日 |
|---------------------------------------|---------------------------------------|----|--------------------------------------|---------------------------------------|-----|-----|
| 3 | 4 | 5 | 6 10:00～ 臨時運営委員会 @IAUD サロン | 7 | 1/8 | 2/9 |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 13:00～ 手話用語 SWG @IAUD サロン | 15 | 16 |
| 17 13:30～ 余暇の UDPJ @IAUD サロン | 18 15:00～ 情報交流センター @IAUD サロン | 19 | 20 | 21 13:30～ 標準化研究 WG @IAUD サロン | 22 | 23 |
| 24 15:00～ 運営委員会 @IAUD サロン | 25 14:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン | 26 | 27 14:00～ 衣の UDPJ @IAUD サロン | 28 | 29 | 30 |

無断転載禁止

次号は 2017 年 5 月発行予定

特集:「IAUD アワード 2016」受賞紹介④ほか

IAUD 情報交流センター (IAUD サロン):

〒104-0032 東京都中央区八丁堀 2-25-9 トヨタ八丁堀ビル 4 階

電話: 03-5541-5846 FAX: 03-5541-5847 e-mail: info@iaud.net